

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十月度 入選句（投稿総数二千四句・一般投句数七百四十八句）

特選

幸せはこんな匂いよ秋刀魚焼く

福井県福井市 三ツ山 しげこ

秋刀魚、鰯は庶民のものとしたものですが、昨今では地球環境の変化とかで漁獲量が減少、高値となつて必ずしもそうではなくなつてきているようです。昔のように七厘で焼く煙の匂いを嗅ぐことはもうありませんが、まだまだこの匂いは平凡な暮らしの中に残っています。そしてこの平凡こそが幸せの原点であることは昔と少しも変つてはいません。

松茸の買ふともなしに嗅ぎゐたり

安八郡神戸町 澤崎 和子

昨今は季節的にはずいぶん早くからスーパーの店頭に並びます。産地を見ますとカナダとか中国とかで日本産ではないようです。昔のあの松茸の香りをと嗅いでみるわけですが残念ながらその期待は裏切られます。その香りさえあれば痩せ我慢ではない買うともなしに嗅ぐだけでもういいやと思うのが本当のところですよ。

栗飯の天地ざっくり反しけり

大垣市 春日井 勝代

季節的には新米での栗御飯となるのが普通と思います。蓋をとつて盛り上る湯気に炊き上りの御飯の香り、その香りを顔に受けてざっくりと天地を反す栗御飯の出来上り、食欲の秋にふさわしい出来上りです。家中にその香りが満ち満ちて、平和な一家団欒の夕餉が始まるのです。

秀逸

かなかなや黄泉の旅への酒たばこ

大垣市 末守 節子

朝顔に水やあってゐる汀女の忌

愛知県名古屋市 舘野 茂子

天守跡に小さな標草もみじ

不破郡垂井町 小畑 美智子

きりぎりす昔のままの水流れ

大垣市 吉田 弘子

夕立や子等の声までずぶ濡れに

大垣市 永井 田鶴子

子燕や一人づつ持つ家の鍵

大垣市 永井 田鶴子

十六夜の月を待つ間に書く便り

大垣市 下村 常子

秋扇少し間のある受け答え

福井県福井市 三ツ山 ひろし

はしやぐ声太鼓に消えて村祭り

養老郡養老町 西脇 俊成

あした刈る稲穂にどつと雀降り

安八郡輪之内町 野村 照子

入選

あたたかいみそ汁恋しい秋の風
笑栗の命あるかに光るかな
鯛雲ふつと我が子を思ふかな
新聞の俳句切りぬく夜長かな
小鳥来る森に手作りパンの店
数珠玉や祖母におそわる事多し
調律のファのさ迷へる秋思かな
ひぐらしや花瓶の花ごと水替えて
夏川の水がみづ押す力かな
新走り酌めば枿より木の香立つ

大垣市 伊藤 厚子
揖斐郡大野町 藤田 涼子
大垣市 北浦 典子
大垣市 傍島 隆
大垣市 棚橋 みさを
大垣市 古澤 実紀
大垣市 清水 登美子
大垣市 日比 昌子
長野県下伊那郡 長沼 まさし
大垣市 三宅 ヒサエ

入選

たそがれに十薬の白きはだちぬ
揚舟や月光の差す輪中かな
時々は雲のかかりて蕎麦の花
真つ青な空閉ぢ込めて芋の露
病む夫の半身おこす十三夜
やじられて台詞何処へ村芝居
空蟬の確かなる四肢動きさう
赤とんぼと遠くへ行きたい時もある
今年また遠き故郷の栗届く

大垣市 近藤 豊子
大垣市 秋山 くに子
不破郡垂井町 服部 智恵
不破郡垂井町 北村 廣美
養老郡養老町 田中 秀子
愛知県一宮市 佐藤 春泥
大垣市 町野 眞佐子
静岡県静岡市 内藤 知
大垣市 吉田 てるみ

選者吟

小鳥来る庭のいちばん高い木に

青 志